

市P連「いのちのエコキャップ運動」

大月市PTA連合会（市P連）では、保護者や地域の方々に向けて、昨年11月にお知らせの文書を配布しました。

その内容の一つに「いのちのエコキャップ運動」があります。

それはペットボトルのキャップを回収し、その収益で「途上国の子ども達にワクチンを贈る」という運動です。

毎日のように利用されているペットボトル本体は、分別され様々な形で再利用されています。しかしそのキャップは、現在のところ、可燃ゴミとして捨てているのが現状だそうです。一般のゴミに混ぜて焼却処分されるとCO₂の発生源となり、また埋め立て処分になると土壌を汚染し、ともに環境を破壊することとなるそうです。

そうした中、NPO法人エコキャップ推進協議会などを中心に全国的に、前述の「途上国の子ども達にワクチンを贈る」というエコキャップ運動が展開されています。世界では一日に約4,000人もの子ども達が、ワクチンが手に入らないばかりに感染症で命を落としているそうです。感染症のワクチンはそれほど高価ではなく、ポリオワクチンは一人分20円です。ペットボトルキャップは400個で

10円だそうです。

この取り組みは、市P連が提唱した取り組みではありません。子ども達を取り巻く大人達が、率先して環境問題への意識を高め、取り組む姿勢を示すことで、子ども達に思いやりの気持ちや規範意識を高めるきっかけとし、子どもも大人もともに育ち合おうという運動です。

本校でも、11月から保護者や地域の方々呼びかけ、学校の児童玄関に『回収ボックス』を用意して、エコキャップ回収運動を開始しました。持ってくるのは子ども達ですが、エコキャップ回収運動の主体は大人でした。

1 月末時点の集計で、

7.5kg 約6,250個

約7~8人分のポリオワクチン代 と

なっています。ちなみに市内全体では、2月末時点での集計では、55.9kg 約1,960人分のポリオワクチン代だそうです。

是非、今後もこの取り組みにご協力ください。

子ども達の挨拶に関するお願い

前号の「下和田小だより『ももくら』」でも書きましたが、「学校評価に基づく改善策」を1月末にお示しました。その中で『地域の方々等から先に挨拶され、それから挨拶を返すのではなく、子ども達から進んで挨拶しよう』については、今、中心的に各学年で取り組んでいます。

子ども達にそういう指導をしても、恥ずかしかつ

たり等で、なかなかすぐ実践できるものではありません。そこで是非おうちの方々や地域の方々からも、子ども達が進んで挨拶できるように声をかけたり、大人から挨拶していただきたいと思っています。そうすることによって、子ども達から進んで挨拶できるようになると思います。

今年度最後の学校開放週が3月2日（月）から6日（金）までです。この間、月曜日午後には「読み聞かせの会」、木曜日の中休みには「縄跳びチャンピオン大会」、金曜日午前には「六年生に贈る会」が行われます。時間の都合をつけて、ご参観ください。